

金沢の都市イメージと河川景観に関する分析

金沢工業大学○吉竹 智紀*・遠藤 孝夫**・柏手 信人*

*非会員 **正会員

1. はじめに

都市に対して人々が抱く全般的なイメージは、当然ながら評価対象として取り上げた都市の特徴によって大きく異なる。そして、評価主体としての人によっても大きく評価結果が異なる可能性がある。また、都市のイメージは、観光などの目的地や場合によっては居住地の選択など具体的な選好行動に反映される可能性も考えられるものの、評価対象の都市と評価主体の人との関係によってはほとんど具体的な意味を有さない場合も考えられる。

本研究は、金沢の都市イメージに関する基礎的な調査として概略的な傾向の分析を試みるものである。さらに、都市イメージの主要な構成要素となることの多い河川景観について、より詳細な傾向を分析することを目的とする。

2. 研究方法

都市イメージを把握するための方法といっても、対象の都市や調査結果の利用目的によって異なるものと考えられる。ここでは基礎的な調査との位置付けから、概略的傾向を把握するため、より都市的かより自然的かという評価軸と、より近代的・機能的かより歴史的・伝統的かという評価軸を設定する。また、都市イメージの主要な構成要素を整理するため、想起される具体的な場所も調査項目として採用し、アンケート調査を実施する。

河川景観に関しては、対象となる犀川や浅野川についてまず空間の特徴によって区間分けを行う。区間分けの基準となる評価項目としては、河川そのものの流れや護岸、周囲の様々な状況などが検討される。その後、区間ごとの景観に対する意識を捉えるためのアンケート調査を実施する。このアンケート結果を入力情報とする分析において、人々が対象河川の景観を捉える際の評価基準を得ることができ、その基準上における各区間の評価結果の位置付けが明確になる。

3. まとめ

都市イメージに関する基礎的な調査から、金沢に対するイメージの概略的傾向が把握される。同時に、金沢の都市イメージの主要な構成要素が整理され、犀川や浅野川といった河川の位置付けが判明する。

また河川景観に関しては、対象河川について空間の特徴が区間ごとに整理され、人々が対象河川景観を捉える際の評価基準を得ることができ、その評価尺度における各区間の評価が明らかになる。この結果を空間の特徴と突き合わせることで、より望ましい河川景観に関する示唆が得られる。

参考文献

- K. リンチ 著、丹下 健三・富田 玲子 訳(1968): 都市のイメージ, 岩波書店.
- 篠原 修(1982): 土木景観計画, 技報堂出版.